



▲2月5日、市役所職員を前に行われた市長就任式

「鹿屋市が大隅地域の将来の鍵を握る。」という強い信念の下、鹿屋市民の皆様が誇りに思えるような、すばらしいまちづくりを進めていきたいという思いでいっばいでありたいです。

今後、公約に掲げました『**市民が主役の明るい未来**』の実現に向けて全身全霊を傾け「本気」で市政運営に取り組み所存でございます。

市民や議員の皆様には、御指導と御理解を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。所信表明とさせていただきます。

副市長、教育長を紹介します

2月27日、鹿屋市の第3代副市長に原口学氏が選任されました。また、2月17日に開催された市教育委員会の臨時教育委員会において、鹿屋市第2代教育長である宮下昭廣氏が再任されました。任期はいずれも4年間です。

教育長



みやした あきひろ
宮下昭廣氏 (66歳)

第2代教育長の宮下昭廣氏が2月17日付で再任されました。

【略歴】

宮下氏は、鹿児島大学教育学部卒業後、昭和45年に県教職員となり、鹿児島市教育委員会学務課長、県教育庁教職員課調整監、鹿児島市立西紫原小学校校長を歴任。平成22年2月から第2代鹿屋市教育長。

任期は4年。

副市長



はらくち まなぶ
新 原口学氏 (60歳)

中野実氏の退任に伴い、原口学氏が2月28日付で第3代副市長に就任されました。

【略歴】

原口氏は、法政大学経営学部卒業後、昭和53年に市職員となり、事務管理課長、情報行政課長、財政課長、農政部長、企画財政部長を歴任。

任期は4年。



▲2月7日、就任記者会見で報道機関のインタビューに答える中西茂市長

○さらには、子どもからお年寄りまで、健康で明るい社会を目指す「(仮称)市民健康づくり条例」の制定などに取り組んでまいります。

4つ目に、「**心豊かに学び、地域文化を育むまちづくり**」については、地域の未来を担う人材を育成するとともに、市民文化やスポーツの振興を図るため、

○次世代を担う子どもたちの教育環境の整備・充実

○地域の誇りと力を高める市

民文化の振興

○鹿屋体育大学と市民とのスポーツや健康づくりを通じた交流の促進

などに取り組んでまいります。

5つ目に「**安全で快適に暮らせるまちづくり**」については、安心・安全な暮らしを確保するとともに、市民の皆様が地域社会活動に積極的に参加し、一人ひとりの活動の輪が地域全体に広がり、「市民が主役」のまちづくりを進めていくため、

○防災施設や避難体制の整備・充実など防災・減災対策の推進

○高齢化や過疎化に対応した持続可能な地域コミュニティの形成の促進

○地域住民や町内会、NPOが主体的にまちづくりに取り組む環境づくりの推進

○雨水排水対策や交通安全対策、国道・幹線道路の整備促進など市民生活や企業活動を支えるインフラの整備などに取り組んでまいります。

さらには、これらの実現に向け、行政の縦割りを払拭しながら、政策的確かつ迅速に推進するため、

○私自身が先頭に立ってスピード感を持って公約を実行するための「(仮称)政策推進室」の設置

○市民と市政について積極的に意見交換を行う「本気で語ろう会」の開催

○民間企業経験者の職員採用をはじめ、民間の視点やノウハウの活用

○旧3町地域のそれぞれの特性を生かした主体的な取組に対する支援

また、過疎・高齢化・人口減少社会に適応した地域づくりや、地域の資源や特性を生かした産業おこし、グローバル化する産業・経済環境への対応、地域発展を支える人材の育成、財政基盤の確立を考えると、ここ5年から10年が、鹿屋・大隅地域の将来にとって重要な時期になると認識しています。

私は、これらの政策課題に、戦略的かつスピーディーに取り組む必要があることから、トップマネジメントを強化する副市長2人体制を検討してまいります。

以上、市政運営に関する所信の一端を述べさせていただきました。平成26年度の具体的な施策や事業につきまして、6月議会定例会においては、施政方針として述べさせていただきます。ただきたいと考えています。

最後になりますが、私の政治の原点は、生まれ育ったふるさとの振興、発展を叶えたいという郷土愛であります。